

〔二六〕 舊唐書廻紇傳。

〔二七〕 等は恐らく衍字なるべし。

〔二八〕 内は衍字なるべし。

〔二九〕 例へば舊唐書西突厥傳射匱可汗の條に「與北突厥爲敵」と記せるを、新唐書には「與東突厥尅」とし、又前者統葉護可汗の條に「武德三年……北突厥爲患、高祖恩加撫結、與之并力、以圖北蕃」とあるを、後者には「帝厚申撫結、約與并力討東突厥」とせるを始め、舊書に北突厥と曰へるものは、新書の東突厥に當るものなること明かなり。

〔一〇〕 薛延陀傳によれば貞觀二年なれども、其の誤なることは註〔八〕中に述べたるが如し。

〔一一〕 唐書西突厥傳。

〔一二〕 Schlegel 氏は菩薩の立ちたるを六二九年、即ち貞觀三年と見たれど (Die chinesische Inschrift auf dem uig. Denkmal. S. 2). 此の考は、邊裔典に、新唐書回鶻傳の「貞觀三年始來朝獻方物」とあるを採録したるを、氏が菩薩の立ちし時と誤解せるに過ぎず。

〔一三〕 舊唐書廻紇傳及び冊府元龜卷九 繼襲篇に「貞觀二十二年吐迷度爲其姪烏紇所殺」と見ゆ。

〔一四〕 冊府元龜封冊篇及び新唐書本紀による。

〔一五〕 回鶻にて内宰相を ičräki と稱したるものなることは、Müller が摩尼教文書に見ゆる回鶻の官名を解釋し、Der Hofstaat eines Uiguren-Königs の中に載せたる所に明かなり、又都督、將軍等の名は其の儘に漢語を使用したるものにして都督は tutuq、將軍は sāngün と稱せること既に突厥時代より然り、此等の語は前記摩尼教文書などにも見え、突厥語はオルホン碑文中に見えること能く知らるゝ所なり。

〔一六〕 舊唐書鐵勒傳及び通鑑に従ふ、新唐書薛延陀傳には夷男の兄弟とも記せり。

〔一七〕 通鑑貞觀二十年六月己丑の條に「上手詔以薛延陀破滅、其勅勒諸部或來附、或未歸服、今不乘機、恐貽後悔、朕當自詣靈州招撫」と見ゆ。